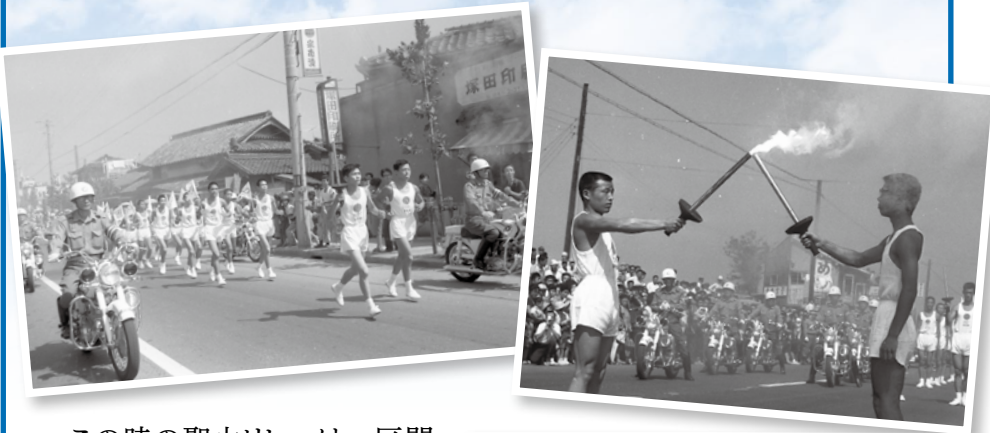




## オリンピックの聖火ランナーが ふたたび貝塚市を走ります!!

みなさんご存知でしょうか、前回1964年東京オリンピックでも聖火ランナーが貝塚市を走ったことを。

昭和39（1964）年9月26日正午すぎ、コースは旧26号線（現在の大阪府道204号堺阪南線）。岸和田市の聖火ランナーから、第28区として当時の帝国産業津田工場前で聖火を引き継ぎ、脇浜の西鉱油店前で第29区のランナーへ、そして泉佐野市立北中小学校前（泉佐野市鶴原）で泉佐野市の聖火ランナーへと繋がりました。



この時の聖火リレーは、区間ごとに正走者が1人、副走者が2人、随走者20人が選出されました。ランナーはすべて貝塚市民でした。当時、随走者として走った丸谷達雄さん（第28区）、立花正和さん（第29区）からお話をきくことができました。



お二人とも当時中学3年生で、第28区の随走者は第二中学校・第三中学校から各10人、第29区は第一中学校から20人選出されたそうです。

【丸谷さん】随走者として走れたことはとにかく嬉しかった。走った区間は約2kmで、沿道に多くの観客が集まっていた。オリンピック開催前には、三中の運動会で聖火リレーを模して走ったことを覚えている。オリンピック期間中はラジオやテレビで競技に夢中となり、オリンピックムード一色だった。来年4月の貝塚市での聖火リレーも市民みんなで盛り上げていきたいですね。

【立花さん】随走者に選ばれたのは、名誉あることだと思う。日本女子バレーボールチームが金メダルを獲得し、貝塚のまちをパレードしたことが一番印象に残っている。56年ぶりの東京オリンピック開催、卓球でぜひメダルを獲得してほしいですね。



来年4月15日(水)に東京2020オリンピック競技大会の聖火リレーが、貝塚市を通過します。コースは12月中旬に発表されます。市民のみなさん、沿道での応援で一緒に盛り上げていきましょう!!

「ホストタウン事業だより」は2か月に1回発行します。



## ホストタウンとは

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図るとともに、スポーツ振興や教育文化の向上、地域活性化等を目的とする各種事業を展開する地方公共団体を国が「ホストタウン」として登録するものです。

貝塚市は、台湾を相手地域とし、女子卓球競技を種目として、平成30年8月31日に登録されました。

### 東京2020オリンピック・パラリンピックホストタウン記念事業

## 文化の日のつどい 講演会・対談

11月3日(日)コスモシアター中ホールで行われた文化の日のつどいで、貝塚市ゆかりのオリンピック・パラリンピック出場経験者による講演と対談を行いました。

まず、貝塚市に練習拠点を置く日本生命女子卓球部の総監督、村上恭和氏による講演を行いました。卓球女子日本代表監督として、2012年のロンドン、2016年のリオデジャネイロのオリンピック2大会連続で卓球女子団体を表彰台へ導いた村上氏は、「自分で考え、判断する力を養うこと」が選手を指導するうえで一番大切だと話されました。

続いて、藤原龍男市長がコーディネーターを務め、村上氏と、井戸川絹子(旧姓:谷田)氏、生長奈緒美氏との対談を行いました。



井戸川氏は、ニチボー貝塚のバレーボールチームに所属。1964年の東京オリンピックでは「東洋の魔女」のエースとして活躍し、金メダルを獲得しました。オリンピックを目指す後輩たちへ、選手に選ばれたことを誇りに思い、頑張してほしいとの言葉がありました。

貝塚市在住の生長氏は、2008年の北京から3大会連続でパラリンピックの水泳競技に出場。視力はほとんどないけれど会場のキラキラした雰囲気を感じ、全身を包み込む大歓声は忘れることがないなどの体験談を話されました。

村上氏からは、日本生命女子卓球部から4人の選手

(台湾のチェンズーユ選手、韓国のチョンジヒ選手、シンガポールのユモンユ選手、日本の平野美宇選手)が東京オリンピック出場の可能性が高いとの話もありました。

藤原市長からは、台湾との交流を軸に、東京オリンピック・パラリンピックを市民と一緒に盛り上げ、貝塚を元気にしていきたいと協力をよびかけました。



## 障害者スポーツ サウンドテーブルテニスのご紹介

日本でも年々盛んになる障害者スポーツ。来年の東京2020パラリンピックでは、多くの障害者スポーツを観戦できるのも楽しみとなっています。

サウンドテーブルテニスは、視覚障害者が参加できるようにルールを変更した卓球です。世界にも類似した競技がありますが、世界共通の視覚障害者卓球となっていないことからパラリンピックの競技にはなっていません。日本では毎年国体の直後に開催される全国障害者スポーツ大会の種目としても採用され、各地で盛んに取り組まれていることから、今回ご紹介します。

サウンドテーブルテニスは、卓球台から4.2cm上げたネットの下を、音の鳴る球を転がして打ち合う競技です。球が落ちないように、卓球台には高さ1.5cmのエンドフレームとサイドフレームがついています。ラバーを貼っていない木製ラケットを使い、打って転がる際の音を聞き分けて打ち返します。球が相手のラケットに触れる前にエンドフレームに当たれば得点となります。ただし、フレームに当たっても、



球が台から落ちたときや打った球がネットに触れて相手コートに達しなかったときは相手の得点となります。1ゲーム11点で5ゲームマッチ。3ゲーム先取で勝ちです。

聴覚を頼りに球を転がしてプレーするので、球の位置を正確にとらえるのは難しく、音を聞き分ける集中力が必要です。9月21日に開催した市民卓球交流フェスティバルでは、多くのかたがサウンドテーブルテニスを体験し、楽しむことができました。

貝塚市内では、貝塚市視覚障害者協会のサウンドテーブルテニスクラブがあり、毎週月曜日の午前中に総合体育館の1階で練習しています。興味のあるかたは視覚障害者をはじめ、どなたでもぜひ参加してください。



## 日本生命レッドエルフを応援しよう!!

今シーズンの成績 11月24日現在 通算5勝3敗 勝ち点18 1位

11月の戦績 11月23日(土) 日本生命レッドエルフ 3-1 日本ペイントマレッツ  
24日(日) 日本生命レッドエルフ 3-1 木下アビエル神奈川



日本生命女子卓球部は1954年に創部された伝統あるチームです。日本卓球リーグ(前期・後期)、全日本卓球選手権大会(団体の部)、全日本実業団卓球選手権大会の四大大会で計55回の優勝を、内閣総理大臣杯では優勝17回と輝かしい実績を誇っています。

また、2018年に最初のシーズンが開幕したTリーグでは、日本生命レッドエルフとして参戦し、初代王者に輝きました。貝塚市を練習拠点としていますレッドエルフの選手を12月号と2月号に分けてご紹介いたします。

〈①名前 ②背番号 ③出身地 ④メッセージ〉



①森 さくら  
②0 ③大阪府  
④私らしく元気なプレーで戦いたいと思います! 応援よろしくお祈いします!



①皆川 優香  
②2 ③大阪府  
④Tリーグ2連覇目指してチーム一丸となって頑張りますので日本生命レッドエルフの応援宜しくお願いします!!



①前田 美優  
②7 ③香川県  
④Tリーグ2連覇できるように持ち前のチーム力で頑張ります!日本生命レッドエルフの応援よろしくお祈い致します!



①陳 思羽  
②11 ③台湾  
④Tリーグ優勝、2020年東京オリンピック代表権獲得、世界ランキング16位以内に入ることを目標に頑張ります!



①石垣 優香  
②17 ③愛知県  
④2ndシーズンもチームワークを武器に2連覇を目指します!